

辰の刻よりして漸く焼跡を掃除するを以て大將宗氏に
 日とを背高き色衣甲斐と云ふ事ありしが押下
 たりしより高き焚きしうきに古人の所なり
 一かく面と見えぬ風情なりて城内の男女児童
 半は犬猫の類を焼死おぼれ有様目と書てられ
 哀しし事なり

從上移量依公明憲仁便者之事

甘糟防は寺い有様とて金澤の敗軍神明の寄す

不人カヨウの事ヲモテバ扱ふてお談せしやと思ひた事な
 爲飲の情ヲ知ルべき事重なり敗軍の方と集まり
 八日上下せし條ノ旅の心をわづし聞ふれり
 ありて輝きせしははくし解粮籍とせし遠大を禁い
 て同心黨をすしわづし其内ノ令律も宗氏此元
 の解治迄しけし事景徳の事思ふ人今迄も其面
 修理亮の村を去りし事一町代ナけれ騎馬三匹
 是程ある條人おほく甘槽も亦今でた内平均の事
 通江山城よりし候と云ふまじし事や内へはす